

## ・懇談会等【共益事業】

---

### (1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚、国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にあった話題に関する講演会と意見交換を行っている。本年度はノーベル賞受賞者シリーズとして3回の本懇談会と、同友クラブと合同の新年会員懇談会を開催した。

第1回は、2016年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典 東京工業大学 栄誉教授・同大学科学技術創成研究院細胞制御工学研究ユニット特任教授を迎え、4月3日に開催した。「半世紀の研究経験から、日本の基礎科学の今後について考える」と題した講演では、細胞自身が不要たんぱく質を分解する「オートファジー」の仕組みと、その解明までの研究の道のり、大学への研究費削減による研究現場の深刻な現状、そして今後の日本の基礎研究のあり方について伺った。

第2回は、2001年にノーベル化学賞を受賞された野依良治 国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター長を迎え、11月28日に開催した。『科学技術力は「生存の条件」 若者たちの「維新の志」に期待する』と題した講演では、日本の科学技術と研究者の実情を踏まえ、科学技術力の再生や急務となっている人材育成のあり方について伺った。

第3回は、青色発光ダイオード(LED)の研究で2014年にノーベル物理学賞を受賞された中村修二 カリフォルニア大学サンタバーバラ校材料物性工学部 教授を招き、3月8日に開催した。「次世代の照明光源と日米司法制度の違い」と題した講演では、次世代の一般消費者向け光源に関して健康リズムのために太陽光の自然光サイクルに近づくことを目指した開発・製品化が進んでいること、また日亜化学との訴訟を通じて感じた日本の司法制度における問題点などについて伺った。

毎年恒例となっている同友クラブと合同の新年会員懇談会は、1月28日に会員限定の完全非公開として開催した。(来賓の意向により内容は掲載不可)

### (2) 会員セミナー

会員セミナー(馬田一委員長、成川哲夫委員長)は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、本会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。

本年度は、7月に運営委員会を開催し、本セミナーの企画・運営について協議した。その結果、医療、AI、労働問題、教育等の分野を優先的に取り上げるテーマとし、

「血液を工場で作る(iPS細胞を応用した再生医療の産業化)」、「がん医療革命」、「AIと共存する未来のエキスパート人材と組織」、「限界国家 外国人労働者の受入れと移民政策はどうあるべきか」、「日本の子どもの貧困と学習支援の効果」等のテーマで、各分野の専門家を招聘した。

これに加え、昨年度より実施している新たな取り組みとして、「これから世界はどうなるのか」をメインテーマとし、米国編・欧州編・新興国編とシリーズでセミナーを開催するなど、最新の世界情勢について情報提供を行った。

米国編では、藤原帰一 東京大学大学院法学政治学研究科 教授から「ポピュリズムの時代 トランプ政権と世界」、欧州編では、庄司克宏 慶應義塾大学 法務研究科 教授から「Brexit 交渉のゆくえと展望」、新興国編では、児玉卓 大和総研 経済調査部長から「新興国の経済展望」と題して講演の後、意見交換を行った。

本年度のセミナー開催回数は18回を数え、各回の終了後には、講演録(セミナー通報)作成、会員専用ウェブサイトで配信した。

また、例年通り、本会の親睦団体である同友クラブメンバーにも本セミナーを案内し、相互連携・交流強化・情報提供に努めた。

さらに、本会創立70周年を機に立ち上げた「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一環として、2016年度より本セミナーを、世代や立場を越えた開かれた議論の場である「テラス」の一つに位置づけ、各地経済同友会会員に継続的に案内している。本年度は、秋田、群馬、埼玉、千葉、新潟、静岡、岡山等の各地経済同友会から会員の参加を得た。

### (3) 産業懇談会

産業懇談会(稲野和利代表世話人、江幡真史代表世話人)は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として、自主運営を行っている。

本年度の定例会は、グループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、さまざまな分野で活躍される外部講師を招聘し、幅広いテーマによる講演と意見交換を実施した。こうした活動に加えて、現場を知ることが目的とした見学会や、複数のグループが合同で開催する懇談会など、多彩な活動を展開した。

また、7月には、毎年恒例の「14グループ合同懇談会」(暑気払い)を開催した。約200名のメンバーが出席し、グループの枠を越えて交流を深めた。

12月に開催した「14グループ世話人会」には、世話人26名が出席し、自身のグループが抱える課題や、特徴的な活動を紹介するなどの情報交換を行い、相互理解を深めた。

また、主に新入会員を対象として通年で実施している「お試し参加制度」は、本年

度 40 件 (29 名) の利用があり、このうち 20 名が正式に登録した。さらに、毎月開催する「新入会員オリエンテーション」において、産業懇談会への登録を積極的に呼びかけるとともに、世話人やメンバーが、知り合いの新入会員に個別に声をかけるなど、メンバー増強に取り組んだ結果、年度末の登録者総数は 880 名 (昨年度末 867 名 : 13 名増加) となった。

各グループの活動状況は、以下の通りである。

#### 〔第 1 火曜グループ〕

例会を 9 回、運営委員会を 1 回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、また外部講師からは、東アジアの安全保障、UAE の現地事情、アジア新興国経済、次世代エネルギーのマネジメント技術、老後を豊かに過ごすための知恵や心構え、ブロックチェーンと仮想通貨の可能性、日本の英語教育、伊豆蕪山代官・江川英龍などについて、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。5 月には夕食懇談会を開催した。運営委員会は 2 月に開催し、2019 年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

#### 〔第 1 水曜グループ〕

例会を 9 回 (見学会 1 回を含む)、運営委員会を 1 回開催した。例会では、メンバーから、主に所属企業・業界の先進的な取組事例や今後の展望・戦略などについて、外部講師からは、中国ビジネスの現状、国際情勢と日本の役割、落語を通じた世界と日本文化の違い、暗号資産 (仮想通貨) の現状と今後などについて、話題提供・講演と意見交換を行った。11 月にはジェー・シー・デイの見学会を実施した。運営委員会は 2 月に開催、2019 年度の活動方針と企画について討議・決定した。

#### 〔第 1 木曜グループ〕

例会を 9 回、運営委員会を 1 回開催した。例会では、メンバーが、自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて話題提供を行い、外部講師からは、マラソン選手の体験談、世界経済の見通しをテーマに、講演と意見交換を行った。運営委員会は 11 月に開催し、今後の運営方針と外部講師の講演テーマ、2019 年度の世話人・運営委員体制について討議・決定した。

#### 〔第 2 火曜グループ〕

例会を 10 回 (見学会 1 回を含む)、運営委員会を 1 回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、また外部講師からは、米中競争時代の幕開け、2018 年の金融経済展望、55 歳からのサハラ砂漠マラソンなど、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。こうした活動のほか、10 月は ANA

機体整備工場見学会、1月はメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催するなど、多彩な企画を実施し、親睦を深めた。運営委員会は1月に開催し、2019年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第2水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、新規加入メンバーや外部講師が、自身の事業や業界、芸術・文化について話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、東京駅・ステーションホテルを訪問し、東京駅建設に関する歴史や建築について造詣を深めた。そのほか、他グループとの交流を深めるため、第2金曜、第3水曜に加え、本年度は第4火曜も加わり、4グループでの新年合同懇談会を実施した。運営委員会は1月に開催、2019年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2木曜グループ〕

例会を11回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーが、グローバルリスクや、AI活用の可能性、CSを重視した企業理念などをテーマとして話題を提供し、意見交換を行った。外部講師からは、日米関係や働き方改革、クローン文化財、iPSテクノロジー等の最先端技術といった時宜を得たトピックについて、多岐にわたる幅広い講演と意見交換を行った。また、見学会では、築地本願寺を視察した。運営委員会は2月に開催し、2019年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2金曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組み、業界の動向などについて、外部講師からは、茨城県の取り組み、AI、日本経済、ホモ・サピエンスの歴史、パラリンピックなどをテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では警視庁を視察した。さらに、第2水曜、第3水曜、および今期から新たに第4火曜グループも加え新年合同懇談会を実施し、グループ間の交流を深めた。運営委員会は3月に開催し、2019年度の世話人・運営委員体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第3火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属する企業・業界の動向などについて、外部講師からは、明治維新150周年もあり西郷隆盛、勝海舟の子孫からの講話や、所得税・国際税務問題、認知低下機能予防、AIのビジネス活用といった最新トピックまで幅広い分野で話題提供・講

演と意見交換を行った。また、11月に見学会としてTBSを訪問、1月にはメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会を2月に開催し、これまでの活動状況を踏まえた上で、今後の運営方針と外部講師の講演テーマ、2019年度の世話人・運営委員体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第3水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の状況や動向などについて、外部講師からは、仮想通貨、景気動向、米中関係、リベラルアーツ教育など、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、国立科学博物館を訪問し、人類の起源についての知見を深めた。また、他グループと交流を深めるため、第2水曜、第2金曜、第4火曜グループとの新年合同懇談会を実施した。6月と12月に開催した運営委員会では、2019年度の運営体制、活動方針、グループ活性化の施策等について討議・決定した。

#### 〔第3木曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、外部講師からはAIとIoT、欧州情勢、金融、落語等、多岐にわたるテーマについて、話題提供・講演と意見交換を行った。見学会ではANAの機内食工場を訪問し、安全・衛生対策の徹底やおもてなしを体現する機内食の工程を視察することで、日本らしさについて知見を深めた。また、メンバー間の交流促進のため懇談会も開催した。運営委員会は2月に開催し、2019年度の運営体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第4火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、主に新入会のメンバーから、ベンチャー企業、ガバナンスやデジタル対応、イスラム圏への進出などについて、また、外部講師からは、日本の観光資源の強み、国際的人権問題、プロアスリートのセルフマネジメントなど、旬な興味深いテーマについて話題提供・講演があり、意見交換を行った。見学会では、9月に上智大学を訪問した。ハラールフードを味わった後、施設見学を行い、教育現場におけるグローバル化に触れる機会が得られた。運営委員会は3月に開催し、一年間の活動の総括とともに、2019年度の活動方針や活性化等について討議・決定した。

#### 〔第4水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、新入会メンバーから自身の事業の紹介や取り組みについて、外部講師から働き方改革や、コ

コミュニティを起点とするビジネス創出など、幅広い分野にわたる話題提供・講演と意見交換を実施した。見学会では、森美術館の「日本の建築展」の視察を実施し、引き続き懇談会を開催して、メンバー相互の親睦を深めた。運営委員会は2月に開催し、一年間の活動の総括とともに、2019年度の活動方針や活性化策等について討議・決定した。

#### 〔第4木曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の動向について、外部講師からは、行動経済学、コーポレートガバナンス、進化生物学など、話題性のあるテーマについて講演と意見交換を行った。見学会では、中日本高速道路の管制センターを訪問し、高速道路を円滑かつ安全に運営するための最新技術について知見を深めた。また、メンバー間の交流を目的とした新年懇談会を1月に開催した。運営委員会は2月に開催、2019年度の運営体制や企画等について討議・決定した。

#### 〔第4金曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業での取り組みや専門分野に関する話題提供を、外部講師からは、人材教育、脳科学、経済展望、「はやぶさ2」ミッションマネージャによる講演など、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。見学会は、凸版印刷 印刷博物館にてVRシアターやデジタル文化財ラボなどを視察、印刷が刻んできた歴史、さらには後世へ残すべく文化財のデジタル保存などについて知見を深め、引き続き懇談会を開催した。また、メンバー間の交流を深めるため、恒例の忘年懇談会を実施した。運営委員会は2月に開催、2019年度の運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

### （4）経済懇談会

経済懇談会（中野祥三郎世話人、岡田誠世話人）は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行っている自主運営の懇談会である。本年度は、8名の新メンバーを含む20名が、9月～3月までの7カ月間に、定例会合を11回、施設見学会を1回開催した。

本年度の活動テーマには、「飛躍的な生産性向上に向けた企業の成長戦略」を掲げ、中でも「イノベーション」「デジタル化」「グローバル化」に焦点を当て、議論を重ねた。毎回の会合では、原則としてメンバーから、自社の経営課題や取り組み事例、自らの問題意識について話題提供を行い、質疑応答と自由な意見交

換によって議論を深めた。

外部有識者からのヒアリングでは、玉田俊平太 関西学院大学 経営戦略研究科 教授より、「ディスラプティブ・イノベーションの脅威と対抗策」の演題の下、デジタル・ディスラプション時代を生き抜くためのステップについて講演をいただき、活発な意見交換を行った。また、松本晃 RIZAP グループ取締役より、「もっと儲ける！」と題し、老舗企業を再び成長軌道に乗せた経営改革とその手法、成果について話を伺った。

施設見学会では、1月に羽田クロノゲート(ヤマトホールディングス)を訪問した。物流業界が直面する課題について理解を深めるとともに、クロスベルトソーターや集中管理室などの視察を通して、物流効率改善に向けた最新技術の動向についての知見を得た。

最終会合では、本年度活動の総括を行い、AI/IoTの進化によるデジタル化が急激に進展する中、日本企業をどのように成長させていくべきかについて、意見交換を行った。

#### (5) 創発の会

創発の会(橋本圭一郎座長)は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

1999年1月の発足以来、本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的として活動している。会合の形式は、毎月1回夕刻より、講演会と懇談会(カクテルパーティ)の二部構成である。

本年度は、6月に正副座長会議を開催し、本会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割について認識の共有を図った上で、運営方針を決定した。

第1回会合は、恒例により、小林喜光 代表幹事より「『国家価値』の最大化に向けて」と題して、本会が考える将来ビジョンを説明するとともに、活動への積極的な参画と支援・協力を呼びかけた。

第2回目は、横尾敬介 副代表幹事・専務理事より、2018年度(第33回)夏季セミナーについて報告の後、「これからの経済同友会」と題して、経営力、社会変革力、自己変革力を高めるための本会自身の新たな取り組みについて説明した。

第3回目以降の会合では、大西賢 幹事より「Welcome to our crazy world!」、志賀俊之 幹事より「オープンイノベーションで日本を強くする」、高島宏平 幹事より「手探りの経済同友会活動」、大八木成男 副代表幹事より「いとをかし」と題して自身の企業経営について、石村和彦 副代表幹事より「AGCから見た液晶産業と『強い製造業』について」、宮田孝一 副代表幹事より「変容する民主主義・資本主義 日

本及び日本企業のあり方」について、それぞれ講演の後、意見交換を行った。

3月には、活動期間が満2年を経過したメンバー67名の修了式を行った(メンバー総数228名)。

#### (6) リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム(小林喜光委員長)は、幅広い視野を持ち、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的としており、会員所属企業の若手役員(主に取締役、執行役員クラス)で本会未入会者を対象に実施している共益事業活動である。2003年度から開始し、本年度で第15期目を迎え、昨年度までに合計329名が本プログラムを卒業、このうち90名が本会へ入会している。

本年度は、25名のメンバーが、7月~3月の間に2回の合宿を含む12回の会合を行い、優れた経営を実践している経営者やさまざまな分野で活躍されている方の話を伺いながら、「不確実な時代におけるリーダーのあり方」などについて自由闊達な議論を重ねた。講師の講演に加えて、軽井沢合宿では「データイズムの時代に求められるリーダーシップとは」「持続可能な経営を実現するリーダーシップとは」いずれかのテーマで、宮崎での総括合宿では「社長就任演説」というテーマで、それぞれ個人スピーチを行った。また宮崎合宿では、各自が実際の経営課題を持ち寄り、模擬取締役会形式のグループ討議を実施した。12月には、毎年恒例となっている第1期~第15期の参加者合同懇談会を開催した。幅広い業種から世代を超えて集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後のネットワーク形成にも大いに役立っている。

#### (7) ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム(立石文雄委員長)は、企業的意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、次期上級幹部を育成することを目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に2012年度から実施している共益事業活動である。

第7期目となる本年度は、24名(女性16名、男性8名)が参加し、7月~2月までに12回の会合を開催した。講師には、ダイバーシティ促進への取り組みに積極的で、革新的かつグローバルな経営を実践している企業経営者を中心に招き、組織のマネジメントや人材育成、ダイバーシティ実現のための取り組みなどに関する話を伺った。講演後の質疑応答では、参加者が直面している具体的な課題について講師からアドバイスを受けた。

また、本年度は、障がい者と健常者が誇りと生きがいを持って共に働く「オムロン京都太陽」の工場を視察し、ダイバーシティについて、一層の理解を深めた。

さらに、各会合での学びを定着させるとともに、メンバー間の議論を深め、自らの

リーダーシップを醸成することを目的に、少人数でのグループ研究を実施した。最終会合では、各グループの研究結果発表と参加者の個人スピーチを実施し、各々の参加者が、今後、実際の職場でどのようにリーダーシップを発揮していくかについて発表した。

12月には、第1期～第7期の参加者合同忘年懇談会を開催し、年度を越えた親睦を深め、ネットワークの強化を図った。